大阪府立農芸高等学校　平成30年度　第３回　学校運営協議会

平成31年2月8日(金)

参加者：角野、藤岡、大堀、澤田、泉谷、新井

参加者：寺岡　浦、喜多村、烏谷、樹、田村・・・記録:烏谷

（１）学校経営計画について（学校長より説明）

委員長　面食らうくらいの多い取り組み内容と保護者の満足度も高く、一つ一つの評価は難しいかも。

委員　　今年本校の生徒さんから聞いた話です、資源動物科の奥や臭い場所までも現場に来ていただける校長なので、今年の生徒は校長が好きだという声を時々聞く。

委員　　体験が言語化されていることがうらやましく、素晴らしいと感じる。体験が言語化され、主体性が確立するプロセスになっていると感じる。

委員　　美原の中学校にも貢献していただいていて、感謝している。

委員　　座学の肯定率が高いことは素晴らしい。教員の犠牲的な努力のたまものもあるが、働き方改革を進めつつ、この肯定率を達成することは大変。しかし、実現させてほしい。美原区としては地域交流の肯定率が高いことはありがたい。持続可能性ある社会実現のために、密に関係を深めていきたいので、今後ともよろしく。

委員　　学校を管理する側からするものとして、×の数字を出していることに驚きと真摯さを感じる。雨の日のバスや対応など今後検討が必要。

（２）第2回「授業アンケート結果」・学校教育自己診断結果について（教頭より説明）

委員　　生徒の様子や業務多忙化等の意見も出ている。

（３）SPH関連事業計画報告（首席より説明）

（４）その他（本日の協議会について全体的な意見を聴取）

委員　　教師が変わると生徒が変わる。家庭でも企業でも同じ。当たり前のことを積み重ねていくことが、社会でも生きていく上でも力になる。

委員　　配慮のある取り組み生徒が多いことが分かった。自分の特性をわかるのが高校生の年代。自分なりのやってきたことを確認することは大切、それが自覚に繋がる。

委員　　探求的な学びは小中学校での大きな課題、開かれた教育課程は必用である。企業と連携の中でできる農芸での学びは、中学校とは異なり、難しい面がある。農芸高校の教育、情報発信について今後も見させていただきたい。

委員　　SPHでの数値化、壮大な社会実験をされているように感じる。アンケート結果、先生方のアンケートは非常に低い。犠牲的な努力の上になりたっているのは心配である。次にどうつなげるのかが大切であり、気になるところである。

委員　　中学生や社会的なニーズや役割をどう見極めるのか、外部からのニーズをうまく引き出し、SPHに反映させていくことが今後大事になってくると思う。SPHをうまく活用して広げてほしい。

委員長　アンケートで教員の指標の低い数値には疲れがあるのかもしれない。あまりにも盛り沢山。保護者の満足度は高くや企業の応援もある。農芸高校で満足している人の声や発信して欲しい。

④その他

校長　本校食品加工科が監修したポテトチップスの紹介。